

報道関係者各位

2015年7月15日

株式会社ツクイ

## ツクイのデイサービス機能訓練に関する研究が 2年連続で日本理学療法学会大会奨励賞を受賞

株式会社ツクイ（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長：津久井宏）が運営するデイサービスにおいて取り組まれている機能訓練に関する発表演題が、この度、日本理学療法学会大会（主催：公益社団法人日本理学療法士協会）において2年連続で奨励賞を受賞いたしました。

《概要》第49回「要支援から要介護状態への移行に影響を及ぼす運動機能の検討

1218名における2年間の追跡調査」

介護予防を推進するために様々な運動機能検査が実施されていますが、それらの結果を有効活用するための基準値が必要とされています。

そこで、当社の理学療法士等の機能訓練指導員が、2006年9月から2011年9月の間、全国の当社デイサービスを利用している要支援高齢者1218名を対象に、要支援から要介護への移行に影響を与える運動機能を2年間追跡調査しました。

その結果、「握力」と「TUG\*」の低下が著しい要支援者（握力：男性が20kg、女性が11kg以下、TUG：男性が17.0秒、女性が19.0秒以上）は要介護状態へ移行しやすい傾向が明らかになりました。

TUG\*：Timed Up & Goの略称で移動能力の指標。イスから立ち上がる→3m先の目印まで歩く→折り返して戻ってくるまでにかかる時間を測定する。

《概要》第48回「要介護高齢者における認知機能の低下が運動機能の変化に及ぼす影響の検討」

要介護高齢者にとって身体機能と認知機能は両者ともに低下を防ぐべきものですが、どのような関係性を持って変化していくのか未だ不明な点が多くあります。

そこで、当社のデイサービスを利用している要介護高齢者について、認知機能が維持できている群737名（維持群）と低下している群591名（低下群）が1年間でどのように運動機能の変化をするか比較したところ、握力や開眼片足立ち時間、椅子立ち座りテストは維持群と低下群が平行して低下しました。他方、歩行速度は1年間で低下群に変化が無かったのに対して、維持群では向上する結果を示し、認知機能の維持は身体機能の維持のためにも重要であることが示唆されました。

また、表彰が行われた 2015 年 6 月開催の第 50 回日本理学療法学会において「デイサービスにおける理学療法士および作業療法士の在籍が要介護高齢者の 12 ヶ月間の生活機能の変化に及ぼす効果～傾向スコアマッチングによる解析～」、「通所介護サービスにおける理学療法士・作業療法士の配置が 12 ヶ月後の歩行機能に及ぼす効果～傾向スコアマッチングによる検討～」、「要支援・軽度要介護高齢者の重度化予防に対する運動機能検査の有用性～4959 名における 3 年間の追跡調査～」と 3 演題を発表いたしました。

当社には、2015 年 3 月末現在 117 名の理学療法士、66 名の作業療法士が在籍し、全国のデイサービス等において機能訓練を実施しており、「心身機能・生活機能の維持・向上」を通して「在宅生活を支える」ことを目指しています。そのためにも、身体機能(体力測定)や認知機能の評価と大規模データベースの構築から、その後の生活機能の低下、要介護度の重度化を予測できるように研究を進めています。

当社は、今後も機能訓練の提供を通じて、高齢化社会における重要な機能としてデイサービスの価値向上に取り組んでまいります。

以上

本リリースに関するお問い合わせ先

株式会社ツクイ 経営企画部 渡邊・杉浦 電話：045-842-4193

(ご参考)

## 学術活動

### 【掲載論文】

- 1) 鈴川芽久美, 島田裕之, 他: 要介護高齢者における転倒と骨折の発生状況. 日本老年医学会雑誌. 2009; 46(4): 334-340.
- 2) Shimada H, Suzuki T, Suzukawa M, et al.: Which Neuromuscular or Cognitive Test Is the Optimal Screening Tool to Predict Falls in Frail Community-Dwelling Older People?. Gerontology, 55:532-538, 2009.
- 3) 鈴川芽久美, 島田裕之, 他: 要介護高齢者における外出と身体機能の関係. 理学療法科学. 2010; 25(1): 103-107.
- 4) 鈴川芽久美, 島田裕之, 他: 要介護高齢者の運動機能と6カ月後のADL低下との関係. 理学療法学. 2011; 38(1): 10-16.
- 5) Shimada H, Suzukawa M, et al.: Relationship between subjective fall risk assessment and falls and fall-related fractures in frail elderly people. BMC Geriatrics, 11:40, 2011
- 6) Shimada H, Suzuki T, Suzukawa M, et al.: Performance-based assessments and demand for personal care in older Japanese people: a cross-sectional study. BMJ Open, 3(4): e002424, 2013.
- 7) Shimada H, Suzukawa M, et al.: The Relationship between the Subjective Risk Rating of Specific Tasks and Falls in Frail Elderly People. J.Phys. Ther. Sci 23:425-429, 2011
- 8) 林悠太, 鈴川芽久美, 他: 通所介護サービスを利用する要介護高齢者のADL低下に関連する運動機能—大規模データを用いた検討—. 理学療法学. 2013; 40(6): 407-413.
- 9) 波戸真之介, 鈴川芽久美, 他: 要支援高齢者と軽度要介護高齢者の判別に影響を与える要因. 日本老年医学会雑誌. 2014; 51(1): 69-73.

### 【学会発表】

- 1) 要介護高齢者の認知機能低下の特徴  
鈴川 芽久美, 波戸 真之介, 林 悠太, 石本 麻友子, 島田 裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2011 (2012)
- 2) 要介護高齢者の運動機能と運動FIMとの関連  
林 悠太, 鈴川 芽久美, 波戸 真之介, 石本 麻友子, 島田 裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2011 (2012)
- 3) 要支援者と要介護者間の心身機能の比較  
波戸 真之介, 鈴川 芽久美, 林 悠太, 石本 麻友子, 島田 裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2011 (2012)
- 4) 様々な環境条件下での移乗動作自立に影響を与える因子  
石本 麻友子, 鈴川 芽久美, 波戸 真之介, 林 悠太, 島田 裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2011 (2012)
- 5) 要介護高齢者における排泄関連動作の低下と心身機能との関連  
林 悠太, 鈴川 芽久美, 波戸 真之介, 石本 麻友子, 今田 樹志, 秋野 徹, 小林 修, 島田 裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2012(2013)
- 6) 要介護高齢者における認知機能の低下が運動機能の変化に及ぼす影響の検討  
波戸 真之介, 林 悠太, 石本 麻友子, 今田 樹志, 秋野 徹, 小林 修, 鈴川 芽久美, 島田 裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2012(2013)
- 7) 要介護高齢者における上下肢機能とADLとの関連  
今田 樹志, 波戸 真之介, 鈴川 芽久美, 林 悠太, 石本 麻友子, 秋野 徹, 小林 修, 島田 裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2012(2013)
- 8) 要介護高齢者の介護度の悪化に影響を及ぼす要因の検討 ~4212名を対象とした2年間の追跡調査~  
秋野 徹, 波戸 真之介, 鈴川 芽久美, 林 悠太, 石本 麻友子, 今田 樹志, 小林 修, 島田 裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2012(2013)
- 9) 独居高齢者の在宅生活継続に重要な生活機能  
小林 修, 林 悠太, 波戸 真之介, 鈴川 芽久美, 石本 麻友子, 今田 樹志, 秋野 徹, 島田 裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2012(2013)
- 10) 要支援高齢者の重度化に関連する運動機能について

- 林 悠太, 波戸 真之介, 小林 修, 今田 樹志, 秋野 徹, 鈴川 芽久美, 島田 裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2013 (2014)
- 11) 要支援から要介護状態への移行に影響を及ぼす運動機能の検討  
波戸 真之介, 鈴川 芽久美, 林 悠太, 今田 樹志, 小林 修, 秋野 徹, 島田 裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2013 (2014)
- 12) 要支援・要介護高齢者における世帯構造と生活機能との関連  
小林 修, 林 悠太, 鈴川 芽久美, 波戸 真之介, 今田 樹志, 秋野 徹, 島田 裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2013 (2014)
- 13) 公共交通機関を利用して外出できる要支援及び軽度要介護高齢者の心身機能の特徴  
今田 樹志, 鈴川 芽久美, 波戸 真之介, 林 悠太, 小林 修, 秋野 徹, 島田 裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2013 (2014)
- 14) 要支援, 要介護認定者を対象とした新しい IADL スケール開発の検討  
李 相侖, 島田 裕之, 朴 眩泰, 牧迫 飛雄馬, 阿南 祐也, 土井 剛彦, 吉田 大輔, 林 悠太, 波戸 真之介, 堤本 広大,  
上村 一貴, 鈴木 隆雄  
日本理学療法学会 Vol. 2013 (2014)
- 15) 通所介護サービスにおける理学療法士・作業療法士の配置が 12 ヶ月後の歩行機能に及ぼす効果 傾向スコアマッチングによる検討  
林悠太、波戸真之介 今田樹志、小林修、秋野徹、阿部勉、大沼剛、島田裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2014 (2015)
- 16) デイサービスにおける理学療法士および作業療法士の在籍が要介護高齢者の 12 ヶ月間の生活機能の変化に及ぼす効果 傾向スコアマッチングによる解析  
波戸真之介、林 悠太、今田樹志、小林修、秋野徹、阿部勉、大沼剛、島田裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2014 (2015)
- 17) 要支援・軽度要介護高齢者の重度化予防に対する運動機能検査の有用性 4959 名における 3 年間の追跡調査  
小林 修, 林 悠太, 波戸 真之介, 今田 樹志, 秋野 徹, 島田 裕之  
日本理学療法学会 Vol. 2014 (2015)